

山本 紗佑里 個展

YAMAMOTO Sayuri solo exhibition

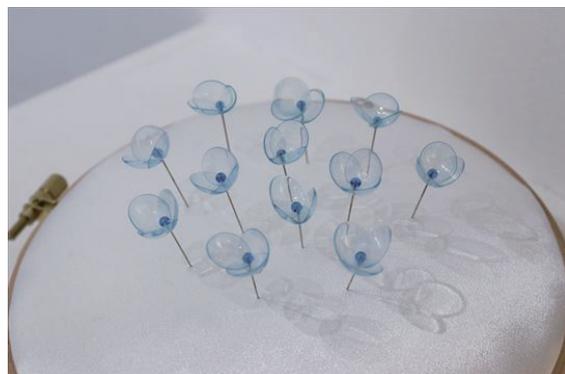


www.kunstarzt.com

ほこりの明滅

flickering dust

KUNST ARZT では、初となる
山本紗佑里の個展を開催します。
山本紗佑里は、自身の生活の中から出たゴミを素材として、
詩情豊かで静謐な作品を生み出すアーティストです。
素材は、抜け落ちた髪の毛、使用済みのコンタクトレンズ
など、アーティスト自身の身体と関係のあったモノから、
メモ書きされた紙やファウンドオブジェまで
多岐に渡ります。
アーティストのささやかな介入によって、これらのゴミに
内在している“瞬間のきらめきと似たもの”と出会えるか
もしれません。
*今年の京都府新鋭選抜展にて朝日新聞社賞を
受賞しました。



目硝子の咲く丘
2022
コンタクトレンズ、まち針、刺繍枠
210mm×200mm×60mm

経歴

1994年 三重県生まれ
2019年 京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻染織修了

個展

2022年 まひるの凍星 (kumagusuku SAS / 京都)

グループ展

2023年 Kyoto Art for Tomorrow 2023 一京都府新鋭選抜展一 (京都文化博物館 / 京都)
2022年 東九条アンサンブル (Books×Coffee Sol.、TARO ハウスほか / 京都)
2018年 透明なすみか (崇仁高瀬川 / 京都)
2018年 つながる糸 ひろがる布 三大学染織専攻合同選抜展 (ギャラリー@KCUA / 京都)
2018年 Colors of KCUA 間間 (THE TERMINAL KYOTO/ 京都)
2017年 飛鳥アートヴィレッジ 2017「ほどけたもの語りとの邂逅」(犬飼万葉記念館 / 奈良)
2016年 点Pの憶測方法 (Art Spot Korin / 京都)
2016年 気化したユートピア (ギャラリーマロニエ / 京都)

2023年6月13日 (火) から 18日 (日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

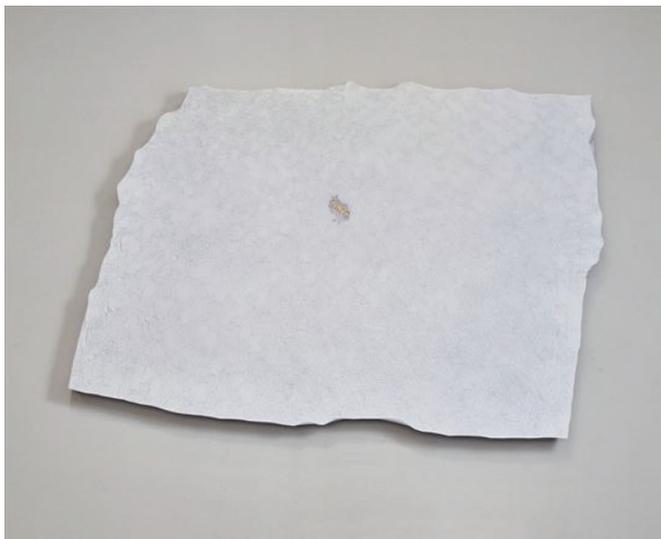
kunstarzt@gmail.com

ほこりの明滅
flickering dust

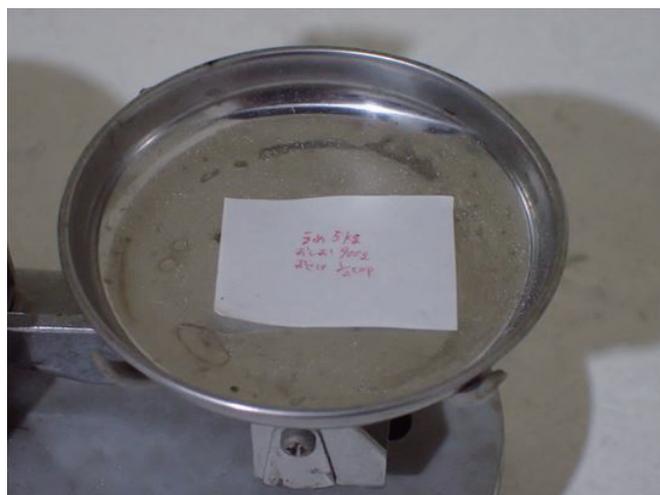
アーティストステートメント、展覧会コンセプト

ちょうどこれを書いている3月の末、街中を歩いていると桜がもりもりと咲き競っていて、いつもよくすれ違っていた木々に、いやあなた桜やったんですかと面食らうことがままある。種類によっては既に花びらを散らしはじめているのもあって、銘々に伸びる枝先の範囲を示すように円環状に白の花びらが地面に張り付いていてあつとなる。あの爛漫といった面影はないものの、確かにあった形が地面に写しとられたようなその領域は、花を落としてもなお自分の咲いた領分に気配を宿らせているようで、勝手ながら崇高なシーンと思っている。そんなふうな期間限定で見せてくれるきらめきでいえば、地面に落ちた白木蓮の肉厚な花びらなんかもそうだ。踏まれたり圧がかかったところだけが茶色に変色しており、突如似合わない人工的な斑点模様を呈していて少しギョッとさせられるものの、そこから靴底の模様やそれを履いていた人の足どりが想像される。

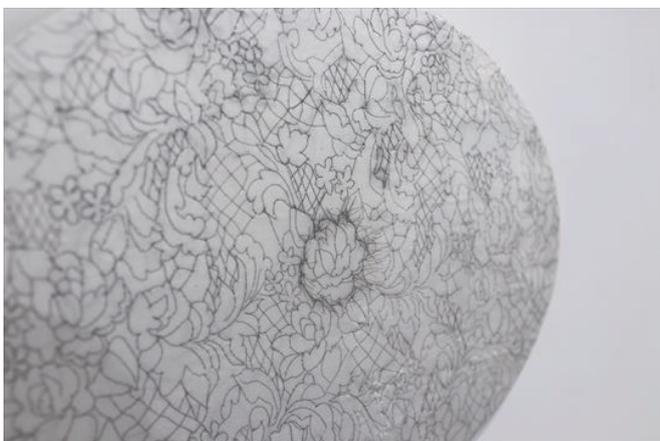
毛髪をはじめ生活の端々のごみを使って作品を作ることは、そういう瞬間のきらめきに似たものをより近くで見たいがためにしている事なのかもと思っている。水分を失って変色し、風に伴って砂利と一緒に路傍に吸い込まれてゆく桜の花弁と、自分の皮膚から抜け落ちて床に落ちている毛髪。自分の生活ひいては命の痕跡をなぞり確かめる感触は、桜と違って私にとっては卑近で厭わしくもより実感が湧くもので、さらにそれがちょっと別の顔を見せた時に、可能世界が延長したような気がするのだ。



ぬるい熱を抱えて毛布に仮の星を吊るす
2023
毛髪、オパールサテン、模造菓子
1600mm×900mm×50mm



共同幻想のはかり
2021
天秤ばかり、レーザー、紙切れ
190mm×700mm×130mm



隠す森
2022
毛髪、サテン布
285mm×200mm×10mm